

令和3年度小中英語パートナーシップ事業 推進地域実践報告(県南地区)

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

	拠点校Ⅰ (西郷村立西郷第一中学校)	拠点校Ⅱ (西郷村立米小学校)	協力校 (西郷村立熊倉小学校)	協力校 (西郷村立羽太小学校)
次年度への展望	○ 小中で同じ言語材料を扱って研究授業などを行うようにすることで小中連携の意味合いも深まると感じた。	○ 児童から本時の学習課題の必然性を引き出すための工夫をし、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○ ALTとの情報共有を図りながら授業づくりを進めるようにする。	○ 「評価の在り方」について小中間で研究・研修を深めていきたい。具体例には、CAN-DOの活用やパフォーマンステストの実施について同じ中学校区でまとまって実施することで効果をあげられないか検討したい。	○ 「書く活動」について、十分に計画を練り、児童に意欲を持たせ指導を進める工夫が必要になる。 ○ CAN-DOの活用を通して中学校区の連携を更に深めていきたい。
取組を振り返って	○ 身近な場面設定のもと目的を持った言語活動の設定により、課題意識が高まった。また、生徒同士の話し合い(シェアリング)を通して、さらに課題解決に向けて、思考・判断・表現する姿が見られた。 ○ タブレットを活用しての振り返りにより、評価の参考資料としても活用できた。	○ Greetingを毎時間取り入れることで、簡単な語句や表現を用いて会話をする児童が増えた。 ○ 単元のゴールを児童と共有した。それにより見通しを持って活動することができた。	○ 小中連携しての指導案検討に参加し、小中が互いに外国語科への理解や授業の在り方についての理解を深めることができた。	○ 単元を通じた指導と評価の計画を立て、3つの資質・能力がバランスよく育成されるように配慮する必要がある。 ○ 外国語科の校内研修の一層の充実を図る。
課題に対する具体的な取組	○ 課題目標を実際のコミュニケーション場面に即して設定する。 ○ 生徒同士による会話の後、中間指導を経て、再度会話するといった学習過程により課題解決を図る。 ○ タブレットに録画して相手に見せるという状況を設定し、より相手意識を持った会話をするにつなげた。また録画した動画を再チェックして更に発表をよくしようとする生徒も見られた。	○ 単元のゴールや本時のゴールを明確にした上で、言語活動の間での振り返りや学習後の振り返りを行った。 ○ 表情豊かに伝え合う児童や既習内容をもとに自分の考えを伝えている児童などを称賛することで、学級全体で表現力を高めるようにした。	○ 目的・場面・状況のある言語活動の設定により、外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を引き出すことができた。	○ 言語活動において、場面に応じた内容や表現について考えさせるためにペアやグループなど学習形態を工夫することで意欲的に取り組む児童が増えた。 ○ 教育教材やタブレット、教育機器の活用は効果的であった。スピーキングクエストも有効に活用し、評価の一助とすることができた。
年度当初の課題	● 与えられた課題に興味や関心をもって取り組もうとする意欲的な態度の育成。 ● ただ英文を読むのではなく、内容についても尋ねたり、自分の考えを伝えたりすることのできる力。 ● 自分の話した内容を、書くことでアウトプットすることのできる力。	● 自信をもって、自分の考えや思いを英語で伝えることができる力。 ● 相手との関わりを楽しみながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力。 ● 簡単な語句や基本的な表現を身に付け、自分のことや学校生活について適切に伝え合う力。	● 外国語に対する関心・意欲、コミュニケーション能力の育成。	● 単元を見通した指導と評価の工夫。 ● 児童の実態を把握し、個人差に応じた単元内容や時間配分を計画的に行う指導のあり方。

推進地域の重点的な取組

- 現状の課題を適切に把握し、それに基づいた事業推進を行う。
- 言語活動の充実のために、単元末のゴールを明確にし、児童生徒にどのような力を身に付けさせるのかを意識して、授業の充実を図る。
- パフォーマンスコンテンツ活用等や外部試験受検によって得られたデータを活用して、授業改善に役立てる。